

「いらっしゃいませ」

受付にいる綺麗な女性がにこやかに言った。

「お客様ははじめてのご利用ですか？」

翼は頷いた。

「それでは当店のコースを説明いたします。コースは4つありまして『Sコース、Mコース、ノーマルコース、そして童貞喪失コースになります。Sコースはお客様が責め、Mコースはお客様が受け、ノーマルコースは責めと受け両方楽しむことができます。童貞喪失コースは童貞のお客様限定で利用することができます」

女性は料金の書かれた紙を差し出した。

「料金に関しましては、90分で童貞喪失コース以外指名料込みで3万円になります。童貞喪失コースに関しましては1000円で利用できます。お客様はどのコースを選択されますか？」

翼は意を決して答えた。

「童貞喪失コースをお願いします」

「はい、童貞喪失コースですね。ちなみに時間はどうされます？」

「90分で」

「はい、90分ですね」

女性は、風俗嬢が載った紙を差し出した。

「童貞喪失コースですと、本日はこの10名が現在待機中ですが、どの女の子にされますか？」

「楓さんで」

「楓ですね。かしこまりました」

女性は1枚の紙を差し出した。

「ちなみに童貞でないお客様が童貞喪失コースを選択された場合、罰則として5万円をいただくことになります。よろしいですか？」

「はい」

「ありがとうございます」

女性は再び紙を差し出す。

「それでは少しだけアンケートを取らせていただきます」

「はい」

「翼様はお付き合いをされたことはありますか？」

「ないです」

「女性の手を握ったことは？」

「ありません」

女性はペンを走らせる。

「風俗ははじめてですか？」

「そうです」

「女性におちんちんを握られたことは？」

「な、ないです」

翼の額に汗が滲む。

「手コキ、フェラ、パイズリの経験は？」

「・・・ありません」

「女性のおまんこにおちんちんを挿入したことは？」

「・・・ないです」

「普段はどのようなアダルトビデオを見てオナニーをしていますか？」

翼は答えるのを躊躇う。

「恥ずかしい気持ちも理解できますが、せっかくの童貞喪失の機会ですので、我々として理想のシチュエーションをお客様に提供したいと思っています。ですので、普段よく利用されているアダルトビデオのタイトルなどを言っていただければ助かります」

翼は顔を赤らめつつも、作品を口にした。

「はい、『優しいお姉さんの甘々筆下ろし』ですね。他に三作品ほどあげていただけますか？」

女性がスラスラとタイトルを書き出した。

「『おねショタ日和シーズン 2』『痴女からはじまるエトセトラ』『長身お姉ちゃんの脚コキ日記』ですね。ありがとうございます」

翼はすでに汗だくだった。

「それでは童貞喪失コースのお会計千円になります」

翼は千円を差し出した。

「それではお客様、ゆっくり楽しんでくださいね」

支払いを済ませた翼は、待合室に向かった。

扉を開け、女性が待合室に入ってきた。

「本日は童貞喪失コースをご利用いただきありがとうございます。プレイする前に少しだけプレイに関する説明をさせていただきます」

女性は1枚のコンドームを取り出した。

「お客様はコンドームを着けたことはありますか？」

「ないです」

「それでは説明させていただきます」

女性は開封して中身を取り出した。

「お客様のおちんちんにこのように装着していきます」

女性は自分の親指にコンドームをはめていく。

「そして女の子のおまんこにおちんちんを挿入していただきます。お客様は童貞様ですの

で、こちらが全てサポートさせていただきますので、心配はいりません」

「わかりました」

「ありがとうございます。それではセックス前の前戯に関する説明をさせていただきます。

フェラとはお客様のおちんちんを舐めたり、咥えたりする行為を指します」

女性は自分の親指を舐めたり、咥えたりした。

「次にパイズリですが、お客様のおちんちんを胸の谷間に挟む行為を指します」

女性は服越しにペンを谷間に挟んだ。

「お客様のおちんちんを挟み、このように上下させていきます」

翼は生唾を飲み込んだ。

「私の胸は G カップありますので、パイズリが可能です」

翼は立ちそうな肉棒を必死に抑え込んだ。

「他にさまざまな行為がありますが、今日は 2 つだけにしておきましょう。次に、指名されました楓の説明をさせていただきます」

女性は楓の写真を数枚差し出した

「身長 172 センチ、スリーサイズ 98・59・90 の H カップになります。当店の人気ナンバーワン女性になります。スラリとしたモデル体型ながら H カップの胸を誇り、顔も美しく、性格も穏やかで、まさにパーフェクトな女性になります。とくにお客様のような童貞様に人気があります。お客様の中には、身体に触られることなく、楓の身体を見ただけで射精してしまったお客様もいるほどです。ですので、挿入にいたらず途中でお漏らししてしまっても気になさらないでくださいね。それではお部屋にご案内いたします」

女性は翼に手を差しのべた。

半勃起している翼は立ち上がることができなかった。

女性がにこやかに微笑んだ。

「大丈夫ですよ。プレイ前に勃起してしまうお客様は珍しくありませんので」

翼は女性の手を握り、待合室を出た。